

# 令和7年度歯学部行事予定表

## — 前 期 —

学年開始	4月 1日 (火)
入学式	4月 2日 (水)
新入生学部オリエンテーション	4月 3日 (木)
授業開始 (1年)	4月 7日 (月)
授業開始 (2～6年)	4月 1日 (火)
臨床開始前実習 (5年)	5月 2日 (火) ～ 10月2日 (木)
C B T (5年)	6月12日 (木)
O S C E (5年)	7月12日 (土)
定期試験時間割発表	7月10日 (木)
授業終了 (1年)	7月29日 (火)
授業終了 (2～4年)	7月28日 (月)
授業終了 (5年)	7月18日 (金)
定期試験期間 (1年)	8月 4日 (月) ～ 5日 (火)
定期試験期間 (2～4年)	7月23日 (水) ～ 8月4日 (月)
定期試験期間 (5年)	8月18日 (月) ～ 22日 (金)
夏季休業 (1年)	8月 6日 (水) ～ 9月26日 (金)
夏季休業 (2～4年)	8月 5日 (火) ～ 9月26日 (金)
夏季休業 (5年)	7月22日 (火) ～ 8月15日 (金) 8月25日 (月) ～ 9月22日 (月)
C B T 追再試験 (5年)	8月 5日 (火)
O S C E 追再試験 (5年)	8月23日 (土)
追試験時間割発表 (1年)	8月 8日 (金)
追試験時間割発表 (2～4年)	8月 7日 (木)
追試験時間割発表 (5年)	8月25日 (月)
追試験期間 (1年)	8月18日 (月) ～ 19日 (火)
追試験期間 (2～4年)	8月18日 (月) ～ 19日 (火)
追試験期間 (5年)	8月26日 (火) ～ 27日 (水)
再試験期間 (1年)	8月25日 (月) ～ 26日 (火)
再試験期間 (2～4年)	8月25日 (月) ～ 27日 (水)
再試験期間 (5年)	9月 1日 (月) ～ 3日 (水)
前期成績発表	10月の指定する日

## — 後 期 —

授業開始	9月29日(月)
臨床実習(5年)	10月6日(月)～翌年度9月末
解剖体慰霊祭	10月23日(木)
歯学部祭	11月上旬～中旬頃
冬季休業(1～4年)	12月24日(水)～1月2日(金)
定期試験時間割発表	1月16日(金)
授業終了(1年)	2月2日(月)
授業終了(2～4年)	2月2日(月)
定期試験期間(1年)	2月3日(月)、9日(月)
定期試験期間(2～4年)	2月3日(火)～9日(月)
追試験時間割発表(1年)	2月6日(金)
追試験時間割発表(2～4年)	2月10日(火)
追試験期間(1年)	2月10日(火)、16日(月)
追試験期間(2～4年)	2月12日(木)～13日(金)
再試験期間(1年)	2月17日(火)、24日(火)
再試験期間(2～4年)	2月18日(水)～20日(金)
卒業式	3月25日(水)
学年終了	3月31日(火)
後期成績発表	3月の指定する日

(令和7年度)歯学部授業時間割  
(前期)(1Q・2Q)

曜日	校時		I		II		III		IV		V					
	8:50	10:20	10:30	12:00	13:00	14:00	14:10	15:10	15:20	16:10	16:20	17:50				
年次	8:50	9:50	10:00	11:00	11:10	12:10	13:00	14:00	14:10	15:10	15:20	16:20	16:30	17:30	17:40	18:40
月	1	歯科学のための物理科学(講3B)	細胞生物学入門Ⅰ(講3B)	歯学展望(講3B)	骨学及び同実習(歯解実・講3B・医2講・医1実)						初年次セミナー(文教・坂本)					
	2	教養教育			教養教育(全学モジュールⅡ)						教養教育					
	3	微生物学・口腔微生物学(講3A)			薬理学及び同実習(講3A・実5C)											
	4	歯科矯正学及び同実習(講6A・臨4B)			予防歯科学及び同実習(講6A・臨4B)						基礎歯学研究					
	5	統合科目(講6B)														
	6	臨床実習										基礎歯学輪講(講3A)				
火	1	(1Q)学内・学外早期体験実習 /(2Q)歯科医師のコンピテンシーⅠ(講3B)				細胞生物学プラクシス(講3B)				初年次セミナー(文教・坂本)						
	2	教養教育			教養教育(全学モジュールⅡ)						教養教育					
	3	薬理学及び同実習(講3A・実5C)		(1Q)微生物学・口腔微生物学(講3A) / (2Q)病理学総論及び同実習(講3A・実5B)		病理学総論及び同実習(講3A・実5B)										
	4	歯科矯正学及び同実習(講6A)		保存修復学(講6A)		保存修復学実習(臨4B)										
	5	統合科目(講6B)										歯学研究				
	6	臨床実習														
水	1	教養教育														
	2	生理学(講3B)/生理学実習(実5C)														
	3	歯科理工学Ⅰ/歯科理工学Ⅱ/歯科理工学Ⅲ(講3A)			口腔組織学及び同実習(講3A・実5B)											
	4	(1Q)災害口腔医学 /(2Q)小児歯科学・小児歯科学実習(講6A)		歯内治療学(講6A)		歯内治療学実習(臨4B)										
	5	統合科目(講6B)														
	6	臨床実習										歯学研究				
木	1	教養教育														
	2	解剖学及び同実習(講3B・歯解実)						歯科医師のコンピテンシーⅡ(講3B)								
	3	内科学総論(講3A)		歯科東洋医学(講3A) / Scientific and Practical English(講3A)												
	4	障害者歯科学(講6A)		歯科医師のコンピテンシーⅣ(講6A)		冠橋義歯学及び同実習(講6A・臨4B)										
	5	統合科目(講6B)														
	6	臨床実習														
金	1	教養教育														
	2	生化学(講3B)		発生学(講3B)		生理学(講3B)/生理学実験(実5C)										
	3	外科学総論(講3A)		口腔解剖学及び同実習(歯解実・講3A)		コミュニティー教育・実習(講3A)		(1Q)基礎歯学研究概論(講3A) / (2Q)基礎歯学研究								
	4	歯科麻酔学及び同実習(講6A)			有床義歯補綴学及び同実習(講6A・臨4B)											
	5	統合科目(講6B)														
	6	臨床実習										基礎歯学輪講(講3A)				

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A・・・講義室3A(C棟3階)  
講2・・・講義室3B(C棟3階)  
講6A・・・講義室6A(C棟6階)  
講6B・・・講義室6B(C棟6階)

実5A・・・実習室5A(C棟5階)  
実5B・・・実習室5B(C棟5階)  
実5C・・・実習室5C(C棟5階)  
歯解実・・・歯学部解剖実習室(A棟7階)

臨4B・・・臨床実習室4B(C棟4階)  
医2講・・・医学部第2講義室  
医1実・・・医学部第1実習室

時間割

90分授業  
1校時 8:50-10:20  
2校時 10:30-12:00  
3校時 13:00-14:30  
4校時 14:40-16:10  
5校時 16:20-17:50

60分授業  
1校時 8:50-9:50  
2校時 10:00-11:00  
3校時 11:10-12:10  
4校時 13:00-14:00  
5校時 14:10-15:10  
6校時 15:20-16:20  
7校時 16:30-17:30  
8校時 17:40-18:40

(令和7年度)歯学部授業時間割  
(後期)(3Q・4Q)

曜日	校時	I		II		III		IV		V		
		8:50	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50	
年次		1	2	3	4	5	6	7	8			
月	1	細胞生物学入門Ⅱ(講3B)		歯学展望(講3B)								
	2	長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(講6B)				長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(オンライン自主学習)						
	3	内科学各論(講3A)		微生物学・口腔微生物学(講3A)		外科学各論(講3A)		隣接医学Ⅱ(講3A)				
	4	歯周病学(講6A)		統合科目(スポーツ歯学/統合科目(総合歯科学Ⅰ)(講6A)		歯周病学実習(臨4B)		基礎歯学研究				
	5	臨床実習										
	6	臨床実習/高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学(講3A)				
火	1	学内・学外早期体験実習(講3B)										
	2	長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(講6B)				生化学実験(実5A)						
	3	(3Q)医学統計学/(4Q)コンピューターⅢ(講3A)	口腔病理学及び同実習(講3A・実5B)									
	4	統合科目(臨床解剖学)(講6A・歯解実・医解実)				口腔外科学Ⅰ及び同実習(講6A・臨4B)		実践臨床歯科英会話(講6A)				
	5	臨床実習						(3Q)コンピューターⅤ/臨床歯学セミナー(講6B)				
	6	臨床実習/高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学(講3A)				
水	1	教養教育										
	2	(3Q)長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(講6B)		(3Q)長崎大学グローバルインターンシップ・プログラム(オンライン自主学習)								
	3	(4Q)解剖学及び同実習(講6B・歯解実・医解実)										
	4	隣接医学Ⅰ・Ⅱ(講3A)				(3Q)歯科理工学実験(講3A・実5C)		(4Q)隣接医学Ⅱ(講3A)				
	5	高齢者歯科学(講6A)				小児歯科学/小児歯科学実習(講6A・臨4B)						
	6	臨床実習						歯学研究				
木	1	教養教育(プラネタリーヘルスⅠ)										
	2	解剖学及び同実習(講6B・歯解実・医解実)										
	3	(3Q)隣接医学Ⅲ(講3A)			(3Q)口腔微生物学実習(講3A・実5A)							
	4	(4Q)隣接医学Ⅰ・Ⅱ(講3A)				(4Q)衛生学及び同実習(講3A・実5A)		隣接医学Ⅰ(講3A)				
	5	歯科放射線学及び同実習(講6A)				冠橋義歯学及び同実習(講6A・臨4B)		臨床歯学研究概論(講6A)				
	6	臨床実習						(3Q) 歯科医療管理学(講3B)				
金	1	教養教育(プラネタリーヘルスⅠ)										
	2	組織学及び同実習(講6B・実5B)										
	3	歯科薬理学(講3A)/口腔生理学(講3A)				口腔生化学(講3A)		基礎歯学研究				
	4	口腔外科学Ⅱ及び同実習(講6A・臨4B)				有床義歯補綴学及び同実習(講6A・臨4B)						
	5	臨床実習/ 医哲学・医療倫理(医学部記念講堂)(9/26(金)・10/17(金)の2日間)										
	6	臨床実習/高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学(講3B)				

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A・・・講義室3A(C棟3階)  
講3B・・・講義室3B(C棟3階)  
講6A・・・講義室6A(C棟6階)  
講6B・・・講義室6B(C棟6階)

実5A・・・実習室5A(C棟5階)  
実5B・・・実習室5B(C棟5階)  
実5C・・・実習室5C(C棟5階)  
歯解実・・・歯学部解剖実習室(A棟7階)

臨4B・・・臨床実習室4B(C棟4階)  
医解実・・・医学部解剖実習室  
医講4・・・医学部第4講義室(病院2階)

時間割

90分授業  
1校時 8:50-10:20  
2校時 10:30-12:00  
3校時 13:00-14:30  
4校時 14:40-16:10  
5校時 16:20-17:50

60分授業  
1校時 8:50-9:50  
2校時 10:00-11:00  
3校時 11:10-12:10  
4校時 13:00-14:00  
5校時 14:10-15:10  
6校時 15:20-16:20  
7校時 16:30-17:30  
8校時 17:40-18:40

## 特別科目（6年次生）

- （1） 歯科医療管理学 . . . . . 290
- （2） 基礎歯学輪講 . . . . . 292
- （3） 高次口腔医療学 . . . . . 294

年度 2025 学期 3Q	曜日・校時 不定期・7-8	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25074071 DNGD44011990 歯科医療管理学/(Social Dentistry)		
対象年次 6年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)	科目分類 特別科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 五月女さき子/sakiko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教授室/095-819-7663(内 7663)/随時			
担当教員(オムニバ ス科目等)	五月女さき子 非常勤講師:佐々木陽一、馬郡正昌、重政昭彦、田本 遼(長崎県)、福田英輝(国立保健医療科学院)		
<b>授業の概要</b> 歯科医療や歯科保健を社会的な側面から考察する。そのため必要な医療関連法規や制度とその実際の適用について、また政策としての健康づくりや予防医学の基礎について解説する。制度や法律の変化に対応するため、6年時に行う必要がある。歯科医療や歯科保健を社会的な側面から捉え理解する。そのため関連法規や制度とその実際の適用について学ぶ。歯科医師国家試験対策としても大いに役立ててもらいたい。			
<b>授業到達目標</b> 一般目標 GIO: 歯科医療や歯科保健を社会的な側面から捉え理解する。また関連法規や制度とその実際の適用について身につける。			
<b>個別行動目標 SBOs:</b> 1. 歯科医療、歯科保健に関連した法律や制度について説明できる。 2. 地域医療、地域保健を説明できる。 3. 歯科医療に関連した職種と職種間のコミュニケーションについて説明できる。 4. 医療安全について説明できる。 5. 社会保障制度、および社会福祉制度について説明できる。		<b>【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</b> B-2-1), B-2-2) A-7-1), B-3-2) A-7-1) A-6-2) B-2-2)	
<b>対応するディプロマポリシー</b> DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP10: 離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。			
<b>授業方法(学習指導法)</b> スライドを用いた授業形式。併せて資料を補足するが教科書も必携。理解度の確認のため定期考査を実施する。			
<b>授業内容</b> 1 回目: 医療法と歯科医師法、医療安全 2 回目: 医療機関のネットワークと情報、衛生学全般 3 回目: 歯科口腔保健に関する動向と課題 4 回目: 歯科口腔保健に関する動向と課題 5 回目: 歯科関連の法律、制度、地域医療等			
キーワード	医療、地域、社会、法律、制度		
教科書・教材・参考書	教科書 口腔保健・予防歯科学(医歯薬出版) 国民衛生の動向(厚生労働省ホームページ)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験を行うが、講義によってはレポートを課することがある。		
受講要件(履修条件)	非常勤講師による特別講義が多いので、礼節をわきまえること。また出席を重視する。		
備考(学生へのメッセージ)	試験は国家試験に類似した形式で実施する。 *【講師・日程に変更の可能性があるため注意すること】		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	木	7-8	医療法と医師・歯科医師の責務について法令や規則をもとに理解する。 医療安全について法令や規則をもとに学ぶ。 *【講師・日程に変更の可能性があるため注意】	長崎県福祉保健部医療政策課 佐々木 陽一 馬郡 正昌	講義室3B
2回	10	9	木	7-8	医療機関のネットワークと情報、地域医療計画、地域医療・福祉の現状と地域医療連携の実際について、また診療ガイドラインについて学ぶ。また周術期口腔機能管理について学ぶ	五月女	講義室3B
3回	10	22	水	5-6	歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の達成状況を通して、わが国の歯科口腔保健に関する動向と課題を確認する。	国立保健医療科学院 福田 英輝	講義室3B
4回	10	22	水	7-8	歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の達成状況を通して、わが国の歯科口腔保健に関する動向と課題を確認する。	国立保健医療科学院 福田 英輝	講義室3B
5回	10	23	木	7-8	地域医療等について学ぶ。歯科医師の倫理、医療・保健・福祉の現状と関連法規、特に歯科医療、歯科保健に関連した法律や制度について学ぶ。 *【講師・日程に変更の可能性があるため注意】	長崎県国保・健康増進課 重政 昭彦 長崎県福祉保健部医療政策課 田本 遼	講義室6B

年度 2025 学期 1・2Q	曜日・校時 不定期・7	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25074702 DNGD44021990 基礎歯学輪講/(Basic Dental Science)		
対象年次 6年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 特別科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 筑波 隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp/A 棟 5階 501 号室/095-819-7652(内 7652)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	阿部薫明 sabe_den@, 伊藤公成 itok@, 片瀬直樹 katase@, 内藤真理子 mnaito@, 森石武史 moriishi@, 中村渉 wataru_nakamura@, 山下裕美 hiyamashita@, 小山田常一 oyamada@, 門脇知子 tomokok@		
授業の概要 最終学年での歯科の基礎を再履修することにより、歯学全般の知識を整理・確認する。国家試験の勉強を始めるにあたり、基本的な方向付けの手助けをする授業と位置づけられる。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 最終学年で歯科医学の基礎領域の知識を整理し、臨床との関連性について理解する。 個別行動目標 SBOs: <b>【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</b> 1. 歯学基礎領域の知識を確認しまとめることができる。 C-1, C-2, C-3, C-4, C-5, C-6, D-1, D-2, E-2, E-3-1), E-3-2) 2. 基礎と臨床との関連性について説明できる。 C-1, C-2, C-3, C-4, C-5, C-6, D-1, D-2, E-2, E-3-1), E-3-2) 3. 国家試験対策として活用できる。 C-1, C-2, C-3, C-4, C-5, C-6, D-1, D-2, E-2, E-3-1), E-3-2)			
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。			
授業方法(学習指導法) 各基礎分野から1名の担当教員による講義形式で行われ、概要または国家試験の過去問等を講義形式で解説する。			
授業内容 1 回目(口腔病原微生物学) 微生物学、口腔微生物学の知識を整理する。国家試験の既出題問題を解答し、解説する。 2 回目(口腔病理学) 過去の国家試験問題を解答し、病理学・口腔病理学及び臨床問題に含まれる病理組織学的診断を包括的に解説する。 3 回目(細胞生物学) 組織学・口腔組織学・発生学を復習する。国家試験の過去問を解答し、要点を整理する。 4 回目(歯科法医学) 法医学・歯科法医学の知識を過去の国家試験問題を解きながら要点を整理する。 5 回目(分子腫瘍生物学) 生化学・分子生物学・細胞生物学関連分野の基礎知識を整理する。国家試験の過去問を解答し、解説する。 6 回目(歯科薬理学) 薬理学、歯科薬理学の基礎知識を整理する。国家試験に準じた問題を解答し、その解説およびその問題に付随する問題点を講義する。 7 回目(加齢口腔生理学) 生理学・口腔生理学の要点を解説する。国家試験の過去問を解答し、解説する。 8 回目(顎顔面解剖学) 解剖学・口腔解剖学の基礎的知識を整理する。過去の国家試験問題の出題傾向と対策について解説する。 9 回目(フロンティア口腔科学) 口腔生化学の知識を整理する。過去の国試問題を解きながら要点を理解する。 10 回目(生体材料学) 歯科理工学に関する知識を整理する。過去の国家試験問題や国試に準じた問題を解きながら、歯科理工学の要点を再確認する。			
キーワード	解剖学、組織学、発生学、生理学、生化学、微生物学、病理学、薬理学、法歯学、歯科理工学		
教科書・教材・参考書	参考書: 今まで使用してきた教科書、参考書、プリント、ノート		
成績評価の方法・基準等	5月下旬に試験を行い、60点以上で合格とする。		
受講要件(履修条件)			
備考(事前・事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に講義科目の知識についての予習をすること。また知識の定着の為に受講後に配布された資料を用い、内容の復習を行うこと。質問等は講義終了直後が望ましいが、後日でも可能なので直接担当教員の研究室を訪ねること。		
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	金	7	(口腔病原微生物学) 微生物学、口腔微生物学の知識を整理する。国家試験の既出題問題を解答し、解説する。	内藤真理子	講義室3A
2回	4	7	月	7	(口腔病理学) 過去の国家試験問題を解答し、病理学・口腔病理学及び臨床問題に含まれる病理組織学的診断を包括的に解説する。	片瀬直樹	講義室3A
3回	4	11	金	7	(細胞生物学) 組織学・口腔組織学・発生学を復習する。国家試験の過去問を解答しながら要点を整理する。	森石武史	講義室3A
4回	4	14	月	7	(歯科法医学) 法医学・歯科法医学の知識を過去の国家試験問題を解きながら要点を整理する。	山下裕美	講義室3A
5回	4	18	金	7	(分子腫瘍生物学) 生化学・分子生物学・細胞生物学関連分野の基礎知識を整理する。国家試験の過去問を解答し、解説する。	伊藤公成	講義室3A
6回	4	21	月	7	(歯科薬理学) 薬理学、歯科薬理学の基礎知識を整理する。国家試験に準じた問題を解答し、その解説およびその問題に付随する問題点を講義する。	筑波隆幸	講義室3A
7回	4	25	金	7	(加齢口腔生理学) 生理学・口腔生理学の要点を解説する。国家試験の過去問を解答し、解説する。	中村 渉	講義室3A
8回	4	28	月	7	(顎顔面解剖学) 解剖学・口腔解剖学の基礎的知識を整理する。過去の国家試験問題の出題傾向と対策について解説する。	小山田常一	講義室3A
9回	5	9	金	7	(フロンティア口腔科学) 口腔生化学の知識を整理する。過去の国試問題を解きながら要点を理解する。	門脇知子	講義室3A
10回	5	12	月	7	(生体材料学) 歯科理工学に関する知識を整理する。過去の国家試験問題や国試に準じた問題を解きながら、歯科理工学の要点を再確認する。	阿部薫明	講義室3A

年度 2025 学期 3・4Q	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25119901 DNGD44041990 高次口腔医療学/(Advanced Oral Medicine)		
対象年次 6年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等)	科目分類 特別科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバ ス科目等)	角 忠輝, 近藤好夫, 多田浩晃, 藤山理恵, 久松徳子, 他協力教員		
授業の概要 今まで身につけた知識を整理・統合し, 歯科医師に必要な全般的知識を確固たるものとするため, チーム基盤型学習 (Team-Based Learning, TBL) の形式により統合学習を行う。また, 基礎系および臨床系各講座が重要項目について解説する。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 歯科医師法第9条に基づいて, 臨床上必要な歯科医学及び口く衛生に関して, 歯科医師として具有すべき知識及び技能について, その知識および態度を修得する。  個別行動目標 SBOs: 1. 基礎および臨床の多分野にわたる歯科医学の統合的知識を基盤として, 症例問題等の課題を解決できる。 2. グループに与えられた課題を効果的かつ効率的に解決するために, 十分に準備して授業に臨み, 他のメンバーと協調して課題に取り組むことができる。		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】  (すべてのコアカリ領域をふまえた上で本講義は進められる。)	
対応するディプロマポリシー DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。 DP2: 歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。 DP3: 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。 DP4: 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。 DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ, リサーチマインドを修得している。 DP6: 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し, 先端的医療を実践するために, 生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。			
授業方法(学習指導法) TBL 形式による相互討論および講義・演習形式による統合学習			
授業内容 (日程については第 I 期開始前に提示する。理解進度によって内容が変更されることがあるので指示には注意すること) 第 I 期(11 月上旬予定) 高次口腔医療学 1~8: Taxonomy I 想起レベルの課題に取り組み, 基本的知識の定着を図る。  第 II 期 高次口腔医療学 9~16: Taxonomy II 解釈レベルの課題に取り組み, 持てる知識の複合に努める。  第 III 期 高次口腔医療学 17~24: Taxonomy III 問題解決レベルの課題に取り組み, 知識の応用, 統合を図る。			
キーワード	歯科医師法, 歯科医師国家試験		
教科書・教材・参考書	特に指定しない		
成績評価の方法・基準等	授業への出席およびグループ作業への取り組みを総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	臨床実習終了者		
備考(学生へのメッセージ)	6 年間の総まとめとなる講義であり, 互いを高め合うために積極的な取り組みおよび討議を期待する。医療人を目指す学習者として相応しい態度で学ぶことができる者に限る。(正当な理由なく欠席したり, 他の学生の受講の妨げになる等の行動をする者は, 評価の対象としないこともある。)		
実務経験のある教員による授業科目	未定。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	10	月	1	高次口腔医療学1	未定	講義室3B
2回	11	12	水	1	高次口腔医療学2	未定	講義室3B
3回	11	12	水	2	高次口腔医療学3	未定	講義室3B
4回	11	14	金	1	高次口腔医療学4	未定	講義室3B
5回	11	14	金	2	高次口腔医療学5	未定	講義室3B
6回	11	19	水	1	高次口腔医療学6	未定	講義室3B
7回	11	19	水	2	高次口腔医療学7	未定	講義室3B
8回	11	21	金	1	高次口腔医療学8	未定	講義室3B
9回	11	21	金	2	高次口腔医療学9	未定	講義室3B
10回	11	26	水	1	高次口腔医療学10	未定	講義室3B
11回	11	26	水	2	高次口腔医療学11	未定	講義室3B
12回	12	1	月	1	高次口腔医療学12	未定	講義室3B
13回	12	3	水	1	高次口腔医療学13	未定	講義室3B
14回	12	3	水	2	高次口腔医療学14	未定	講義室3B
15回	12	8	月	1	高次口腔医療学15	未定	講義室3B
16回	12	10	水	1	高次口腔医療学16	未定	講義室3B
17回	12	10	水	2	高次口腔医療学17	未定	講義室3B
18回	12	10	水	3	高次口腔医療学18	未定	講義室3B
19回	12	12	金	1	高次口腔医療学19	未定	講義室3B
20回	12	12	金	2	高次口腔医療学20	未定	講義室3B
21回	12	15	月	1	高次口腔医療学21	未定	講義室3B
22回	12	17	水	1	高次口腔医療学22	未定	講義室3B
23回	12	17	水	2	高次口腔医療学23	未定	講義室3B
24回	12	17	水	3	高次口腔医療学24	未定	講義室3B

## 臨床実習（5年次生，6年次生）

臨床実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 304

年度 2025 学期 年度跨り	曜日・校時 月～金・1～7	必修選択 必修	単位数 43
科目番号	25044801		
科目ナンバリング・コード	DNGD44031991		
授業科目名/(英語名)	臨床実習/(Undergraduate clinical training of dental practice)		
対象年次 5・6 年次	講義形態 実習形式(一部講義形式)	教室	長崎大学病院他
対象学生(クラス等)	第 5 学年前期～第 6 学年前期	科目分類	臨床実習
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと		
担当教員(オムニバ ス科目等)	角 忠輝(臨床実習室室長), 近藤好夫(臨床実習室副室長), 多田浩晃(総合歯科臨床教育学), 久松徳子(医療教育開発センター), 川下由美子(口腔保健学), 佛坂齊祉(歯科矯正学), 日高 聖(小児歯科学), 江越貴文(保存修復学部門), 松裏貴史(歯周歯内治療学), 張 曉旭(口腔インプラント学), 吉田和弘(歯科補綴学), 川崎五郎(口腔顎顔面外科学), 佐々木美穂(口腔診断情報科学), 尾崎 由(歯科麻酔学), 山口香織(特殊歯科総合治療部), 山下裕美(歯科法医学), 吉松昌子(口腔管理センター), 木村泰男(臨床教授)		
授業の概要	<p>臨床実習は附属病院, その他の医療現場において, 実際に患者と接しながら, 指導医の指導・監督の下に実施すべき内容であり, 登院前の臨床開始前実習および実際に患者の診療を行う診療参加型臨床実習で構成される。臨床実習においては, 総合的な診療能力の基本としての知識, 技能及び態度を修得するために, 個々について独立して行うのではなく臨床実習全体を通して体系的に行わなければならない。また法令を遵守し, 社会制度や歯科医療関連法規に沿った診療を行うことを学ぶ。</p> <p>臨床開始前実習では, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム に示される F シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))に基づき, 診療行為全般に対する準備教育を行う。</p> <p>診療参加型臨床実習においては, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム に示される G 臨床実習に基づき, 基本的な診察や技能を修得し, 歯科医学・医療の進歩と改善に資するために, 臨床を通して研究意欲と基礎的素養を身に付け, 卒業後に歯科医師としての資質・能力を涵養することを目標とする。その達成のためには, できるだけ自験を行うことが必要であり, 別表(305～306 頁)にある「臨床実習の内容と分類」に記載した実習内容を参照し実習を行う。</p>		
授業到達目標	<p>口腔の健康を通じて人の命と生活を守る歯科医師としての職責への自覚を高めるとともに, 患者およびその家族と良好な人間関係を構築する能力, 患者の全人的理解に基づく基本的歯科診療を実践する能力, そして自ら問題を発見して自己学習によってそれを解決する能力を培う。</p> <p>各診療科等の一般目標(GIO)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 良好な患者-歯科医師関係を築くとともに, 患者の情報を聴取し仮診断をして適切な診療科へ引き継ぐための知識, 技能および態度を修得する。</li> <li>2) 地域歯科保健活動を実践するために必要な基本的知識・技能および態度を修得する。</li> <li>3) 矯正模型分析に必要な基本的な技能を修得する。矯正診断と治療評価に必要な知識, 技能および態度を修得する。</li> <li>4) 小児歯科臨床に必要な知識, 技能および態度を修得する。</li> <li>5) コンポジットレジン修復についての知識, 技能および態度を修得する。</li> <li>6) 根管治療についての知識, 技能および態度を修得する。</li> <li>7) 歯周疾患治療のために, 歯周基本治療についての知識, 技能および態度を修得する。</li> <li>8) クラウンブリッジによる補綴歯科治療についての知識, 技能および態度を修得する。</li> <li>9) 患者を中心とした歯科医療の実践に必要な有床義歯治療の知識, 技能および態度を修得する。また摂食嚥下障害も含め, 口から食べることを歯科医師として理解する。</li> <li>10) 顎顔面口腔領域に発生する疾患を理解し, 診断を導く思考力および判断力を養い, 全身管理も含めた治療方針を決定する能力を身につける。</li> <li>11) 各種疾患の診断に必要な画像検査を選択し, 画像診断の方法を修得するとともに, 放射線防護の実践のための基本的知識, 技能を修得する。</li> <li>12) 患者の全身状態を把握する意義を学び, 全身状態に配慮した, 安全な歯科診療の基本を理解する。</li> <li>13) 障害者および有病者の診療に参加することにより, これらの患者に対する口腔管理を体得し, ノーマライゼーションの概念, 口腔管理の重要性を理解し, 「口の健康を通して人の生活の質(QOL)を守る」という歯科医師の役割を理解する。</li> <li>14) 災害, 事故, 犯罪等の身元不明死体における個人識別(身元確認)の重要性を理解する。</li> </ol> <p>【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</p> <p>F シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))</p> <p>F-1 診療の基本</p> <p>F-1-1) 口腔内の診察・記録</p> <p>F-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>F-2 基本的診察法</p> <p>F-2-1) 医療面接</p> <p>F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査</p> <p>F-3 基本的臨床技能</p> <p>F-3-1) 共通事項</p> <p>F-3-2) 歯科保健指導</p> <p>F-3-3) 歯と歯周組織の疾患の治療</p> <p>F-3-4) 歯質と歯の欠損の治療</p> <p>F-3-5) 小手術・口腔粘膜疾患の治療</p> <p>F-3-6) 矯正歯科・小児歯科治療</p> <p>F-3-7) 高齢者・障害者等患者への治療</p> <p>G 臨床実習</p> <p>G-1 診療の基本</p> <p>G-1-1) 臨床診断・治療計画</p> <p>G-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>G-2 基本的診察法</p> <p>G-3 基本的臨床技能</p> <p>G-4 チーム医療・地域医療</p> <p>G-5 患者中心の医療</p>		

<p>授業方法(学習指導法)</p> <p>臨床開始前実習(OSCEに合格している場合はその一部を免除することがある)</p> <p>病院歯科外来および入院病棟における臨床実地全般</p> <p>離島歯科医療・福祉・保健実習</p> <p>歯科健診等地域医療実習</p> <p>臨床歯学セミナー</p>	
<p>対応するディプロマポリシー</p> <p>DP3 歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。</p> <p>DP4 歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。</p> <p>DP5 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。</p> <p>DP6 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。</p> <p>DP7 患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。</p> <p>DP8 患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>DP9 多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。</p>	
<p>授業内容</p> <p>「臨床開始前実習の手引き」「臨床実習の手引き」参照</p>	
キーワード	診療参加型臨床実習, 歯学教育モデル・コア・カリキュラム
教科書・教材・参考書	特に指定しない
成績評価の方法・基準等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席(実習であるため各分野実習全日程の4分の3以上が必要)</li> <li>2. 各分野が設定する到達目標をすべて達成すること</li> <li>3. 歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC PX)に合格すること</li> <li>4. 臨床知識理解度試験に合格すること</li> </ol> <p>以上の点について総括的評価を行い、臨床教育委員会の承認を受け合否を判定する。</p>
診療参加型臨床実習受講要件(履修条件)	第5学年前期までの全科目および共用試験(CBT, OSCE)に合格すること。
備考(学生へのメッセージ)	<p><b>【臨床実習の手引き 序言より抜粋・改変】</b></p> <p>歯学教育における卒前の臨床教育は、歯科医師としての考え方、知識、技術を修得するための最も重要な実習である。これまで諸君が経験してきた教育は学生と教員の共同作業であった。しかし、臨床実習はこの中に<b>患者という病んだ第三者が介在する全く新しい授業形態</b>である。諸君はまずこのことを心してほしい。加えて臨床実習は諸君の<b>勉学意欲の如何によって得るものの質と量に大差がつく</b>という危うさも持ち合わせている。諸君の積極的な学習を期待したい。</p> <p>本学部における臨床実習の特徴は、個々の臨床実習生に患者を担当させ、実際に診療行為を行わせることである。これは、自分で<b>主体的</b>に行うことが生きた成果を獲得しやすく、意欲も沸いてくるという教育理念に基づくものである。しかし、現時点では歯科医師としての資格のない諸君が行うのであるから、インストラクターの監督下でしか許されないという制約があるのは当然である。見守るインストラクターの心労も察して欲しい。医療を学ぶ者として、また、次回も来院してもらうためにも、患者さんの信頼を失わない努力を心がける必要がある。</p> <p>令和3年5月28日歯科医師法が一部改正され、臨床実習に対する社会の考え方が大きく変革されることとなった。以下に条文の一部を抜粋する。</p>

	<p>歯科医師法第 17 条          歯科医師でなければ歯科医業をなしてはならない。</p> <p>歯科医師法第 17 条の2          大学において歯学を専攻する学生であつて、当該学生が臨床実習を開始する前に修得すべき知識および技能を具有しているかどうかを評価するために大学が共用する試験として厚生労働省令で定めるものに合格したものは、前条の規定にかかわらず、当該大学が行う臨床実習において、歯科医師の指導監督の下に、歯科医師として具有すべき知識および技能の修得のために歯科医業(政令で定めるものを除く。次条において同じ。)をすることができる。なお、上記は令和 6 年 4 月 1 日より施行される。</p> <p>社会はもはや諸君を学生では無く歯科医師として位置付け、知識、技能の修得に期待を寄せていると言うことである。裏返せば、社会は諸君にプロフェッショナルとしての態度、行動を求めていることに他ならない。</p> <p>臨床実習は主として病院本館6階の歯科系診療部門内臨床実習室をホームグラウンドとして行われるが、これだけでは症例が限定される。そこで、少人数のグループ単位で各科へ出かける特別実習も組まれている。</p> <p>さらに、これらの臨床実習が病院内における日常業務の一環として行われていることにも留意すべきである。カルテを出したり料金を受け取ったりする事務職員や、器材の整備、発注をする歯科衛生士、看護師など全職員の支援を受けて成り立っていることを忘れてはならない。</p>
<p>実務経験のある教員による          授業科目</p>	<p>別冊「臨床実習の手引き」に記載の担当教員全員／長崎大学病院での歯科臨床経験／診療実務経験を活かし、診療能力としての基本的知識、技能、態度を修得するための指導を行う。</p>

## 臨床実習の内容と分類

Gの項目		I. 指導者のもと実践する (自験を求めるもの)	II. 指導者のもとでの実践が望まれる (自験不可の場合は シミュレーション等で補完する)	
1 診療の 基本	臨床診断・ 治療計画	診断と治療計画の立案(咬合が安定している)	診断と治療計画の立案(咬合を安定させる処置が必要)	
	病態写真 ・模型	口腔・顔面の写真撮影、研究用模型の製作		
	診療録・ 処方箋	診療録の作成、処方箋の作成、技工指示書の作成		
2 基本的 診察法	医療面接	医療面接(成人)	医療面接(高齢者)	
	バイタルサイン	血圧・脈拍・呼吸・体温の測定		
	頭頸部・ 口腔の診察	頭頸部・口腔の視診・触診・打診・聴診		
	画像検査	口内法エックス線撮影	パノラマエックス線撮影	
	臨床検査		温度診、電気診、透照診	う蝕リスク検査
			根管長測定	根管内細菌培養検査
			歯周組織検査(歯の動揺度検査、歯周ポケット検査、 プラーク指数測定、歯石指数測定、出血指数測定)	
			咬合検査	咀嚼能率検査
	3 基本的 臨床技能	共通	手洗い(衛生的・手術時)、滅菌手袋の装着、ガウン の装着	
局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)			局所麻酔(伝達麻酔)	
中間技工物の製作(咬合床、トレー 他)				
ポットフォリオの作成			症例報告資料の作成と実施	
口腔外科系		永久歯の単純拔牙	小膿瘍切開、縫合、抜糸	
保存系		コンポジットレジン修復(単純窩洞)、メインテナンス、 象牙質知覚過敏処置	コンポジットレジン修復(複雑窩洞)、補修修復、メタル インレー修復(複雑窩洞)、グラスアイオノマーセメント 修復	
		ラバーダム防湿、感染根管治療(根管充填を含む:単 根歯)	覆髄法(直接・間接)、暫間的間接覆髄法、歯髄鎮痛 消炎療法、抜髄法、感染根管治療(根管充填を含む: 複根歯)	
		歯周基本治療(プラークコントロール指導、スクーリン グ・ルートプレーニング)、メインテナンス	歯周基本治療(咬合調整)、暫間固定(簡単なもの)	
補綴・ リハビリ系		クラウンによる補綴治療(支台歯形成、但し支台築造 を除く)、プロビジョナルレストレーション、メインテナ ンス	支台築造(メタルポストコア、レジンポストコア、ファイ バーポストコア) 平行関係に問題のないブリッジの支台歯形成と補綴 治療	
		可撤性義歯による簡単な欠損補綴治療、可撤性義歯 の簡単な修理・調整、メインテナンス	可撤性補綴装置による欠損補綴治療、補綴装置破損 の修理・調整、メインテナンス	
予防・ 指導系		口腔清掃	フッ化物塗布、予防填塞	
		セルフケアに対する動機づけ、口腔衛生指導	食事指導、食育指導、高齢者に対する栄養指導、生 活習慣に関する指導、禁煙指導・支援	
小児・ 矯正系		診療の基本、予防・指導系に同じ	模型分析・頭部エックス線規格写真分析、診断、治療 計画の立案	
	高齢者・障害者			
4 チーム医療・地域 医療	地域包括ケアシステムの体験	社会福祉施設等での歯科保健指導 地域歯科保健活動		

※自験の定義: 指導歯科医の管理・監督の下で、学習者が実際に歯科医行為を経験する実習

(「歯学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議第1次報告を踏まえた第3回フォローアップ調査まとめ(平成28年3月31日)」より抜粋)

Ⅲ. 指導者の介助をする	Ⅳ. 指導者のもとで見学・体験することが望ましい
診療情報提供書(医科診療所・病院・病院歯科・施設宛て等)の作成	手術記録・麻酔記録の作成
医療面接(小児・障害者等)	医療面接(救急処置の必要な場合)
	救急処置の治療
口外法エックス線撮影、頭部エックス線規格撮影、歯科用CBCT	CT、MRI、超音波検査、造影検査
塗抹検査	採血、血液検査、免疫学的検査、生化学検査、一般細菌検査、心電図検査、呼吸機能検査、心理学的検査、止血機能検査、末梢神経機能検査
	根管内視鏡検査、実体顕微鏡による検査
	口臭検査
唾液分泌能検査、顎口腔機能検査、舌圧検査	金属アレルギー検査
	嚥下機能検査
	細胞診検査、病理組織学的検査
精神鎮静法と周術期管理	全身麻酔法と全身管理 入院患者管理
永久歯の複雑抜歯、小手術(埋伏歯の抜歯、歯根端切除術 他)	全身麻酔下での口腔外科手術
セラミックインレー修復、レジンインレー修復、ラミネートベニア修復、生活歯の漂白処置	レーザーによるう蝕除去
外傷歯の処置、失活歯の漂白処置、歯内-歯周病変の処置、断髄法、アペキシフィケーション、ヘミセクション	外科的歯内療法(歯根端切除等)、歯の再植と移植
暫間固定(複雑なもの)、歯周外科手術(歯周ポケット搔爬術 他)	永久固定、歯周外科手術(フラップ手術 他)
困難なクラウンブリッジの支台歯形成と補綴治療	可撤性支台装置による複雑な欠損補綴治療、デンタルインプラント、顎関節症治療、CAD/CAM法
困難な可撤性補綴装置による欠損補綴治療、複雑な補綴装置破損の修理・調整、摂食嚥下リハビリテーション	顎顔面欠損補綴治療
フッ化物洗口法の実施指導等	
学校歯科健康診断等での保健指導、小児等に対する歯科保健指導	
乳歯のう蝕治療、乳歯の単純抜歯、断髄法、簡単な装置の作成	行動変容法、咬合誘導、保隙処置、包括的矯正治療
障害者の歯科治療 口腔衛生指導 移乗	薬物的行動調整下での歯科治療 在宅医療 医療連携
在宅医療(口腔清掃を含む)	地域包括ケアシステムを踏まえた病診・病病連携、多職種連携によるチーム医療

研究科目（3年次生、4年次生、5年次生、6年次生）

※歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論	(3年) . . . . .	308
基礎歯学研究	(3・4年) . . . . .	310
臨床歯学研究概論	(4年) . . . . .	313
歯学研究	(5・6年) . . . . .	316

年度 2024 学期 通年	曜日・校時 5年次/(前)火・8 (後)水・7 6年次/(前)水・7	必修選択 選択	単位数 3
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104904 DNDR44051993 歯学研究/(Dental Research)		
対象年次 5年次、6年次	講義形態 実験形式	教室 各基礎系、臨床系研究室	
対象学生(クラス等)	歯学研究コース	科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp / 歯学部学務係/095-819-7613/9:00~17:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、片瀬直樹、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子、住田吉慶、吉田教明、藤田優子、吉村篤利、澤瀬 隆、村田比呂司、山田朋弘、讃岐拓郎、倉田眞治、平 曜輔、山田志津香、角 美佐 他		
授業の概要			
本大学院の基礎、臨床歯学分野の研究室で研究を行い、歯学の最先端の研究活動に参加する機会とする。			
授業到達目標			
一般目標 GIO: 配属先の基礎・臨床歯学分野の研究内容について理解し、研究に参加する。			
個別行動目標 SBOs: <span style="float: right;">【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</span> 配属先の基礎系・臨床系研究室で歯学研究活動を行うことができる。 <span style="float: right;">A-8-1)</span>			
対応するディプロマポリシー			
DP5: 歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。 DP6: 多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。 DP11: 未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。			
授業方法(学習指導法)			
各基礎、臨床系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。			
授業内容			
○ 5年次: 前期火曜日 8校時、後期の水曜日 7校時(60分×30回) 6年次: 前期の水曜日 7校時(60分×15回) 予定 ※実験など内容によっては回数や時間数が変更になる場合もある。 ○ 各コース内容に関しては次頁の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。			
(基礎系コース)			
1. 顎顔面解剖学: 顎顔面領域形質の小進化について、解剖体や人骨資料をもとに解析を行う。 2. 硬組織発生再生学: 発生工学・幹細胞生物学・分子生物学的手法を用い、骨・軟骨生物学に関する研究を行う。 3. 加齢口腔生理学: 体内時計の神経回路と生理機能に関する実験研究。 4. 口腔病理学: 病理標本の作製実習、臨床症例の病理組織学的検討、疾患の分子生物学的解析を行う。 5. 口腔病原微生物学: 細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定。 6. 歯科薬理学: 実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定。 7. 生体材料学: 歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定。 8. 分子腫瘍生物学: 遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する解析を行う予定。 9. フロンティア口腔科学: 培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ。			
(臨床系コース)			
10. 歯科矯正学: 矯正力による歯の移動に関する基礎、臨床研究を行う。 11. 小児歯科学: 小児の口腔機能に関する研究を行う。 12. 歯周歯内治療学: 歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々なリスク因子の評価法について学習する。 13. 口腔インプラント学: 生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。 14. 歯科補綴学: 補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究 15. 先進口腔医療開発学: 口腔領域の再生医療に関するトランスレーショナル研究を学ぶ。 16. 口腔診断・情報科学: 頭頸部腫瘍を対象に、MR機能画像を用いた臨床研究を行う。 17. 歯科麻酔学: 動物での基礎研究、人での臨床研究の手法を学ぶ。 18. 歯科補綴学(保存修復学部門): 歯牙硬組織疾患の治療や歯冠修復材料に関する研究について学ぶ。 19. 口腔顎顔面外科学: 口腔癌や薬剤関連顎骨壊死の臨床病理学的研究、及び顎変形症などの変形性疾患に対する臨床研究について概説する。			
キーワード			

教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材
成績評価の方法・基準等	主に発表内容、レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。
受講要件(履修条件)	希望する研究室を学務係に申告すること。研究室によっては人数制限がかかる場合もある。全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。
備考(学生へのメッセージ)	指導教員とよくディスカッションするように。
実務経験のある教員による授業科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉田 教明／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・藤田 優子／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・吉村 篤利／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・平 曜輔／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・澤瀬 隆／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・村田 比呂司／長崎大学病院における歯科補綴診療業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・山田 朋弘／長崎大学病院における診療業務／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・住田 吉慶／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・角 美佐／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・讃岐 拓郎／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・倉田 眞治／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> <li>・山田 志津香／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床的研究の指導を行う。</li> </ul>

コース表

(基礎系コース)

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	顎顔面領域の形質の小進化について、解剖体資料や人骨資料からのデータ採取、解析、結果の解釈を行う。 定員は1名の予定	5年次/前期:火8 後期:水7 6年次/水7	小山田
2	硬組織発生再生学	骨の幹細胞に着目し、遺伝子改変マウス、幹細胞培養系、分子生物学的解析法を用いて、骨格の形成、再生機構やがんの発生メカニズムの同定に関する研究を行う。 定員は1～2名の予定		松下 森石
3	加齢口腔生理学研究	体内時計の神経回路に関する実験研究を行う。 定員は2名の予定		中村
4	口腔病理学研究	分子細胞学的な研究にも、臨床での病理組織診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン標本の作製、標本の観察、細胞生物学的実験を行う。 定員は2名の予定		片瀬 永野
5	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は1～2名の予定		内藤
6	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 坂井 山口
7	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 阿部 バラネサ'ハド'
8	分子腫瘍生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する解析を行う予定。 定員は2名の予定		伊藤 大谷
9	フロンティア口腔科学研究	教員の指導のもと、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ 定員は2名の予定		門脇 佐藤

コース表

(臨床系コース)

No.	コース	授業内容	日程	担当者
10	歯科矯正学研究	教員の指導のもと、矯正力による歯の移動や歯根吸収のメカニズムに関する基礎、臨床研究の手法を学ぶ。 定員は2～3名の予定	5年次/前期:火8 後期:水7 6年次/水7	吉田 佛坂 富永 濱中
11	小児歯科学研究	遺伝生化学的実験研究、あるいは小児・障害者を対象とした臨床研究を行う。 定員は1～2名の予定		藤田
12	歯周歯内治療学研究	歯周病および根尖性歯周炎の発症に関わる様々な因子について、どのような方法でそれぞれのリスクを評価するのか学習する。 定員は2～3名程度の予定		吉村 岩下 柳口 坂本
13	口腔インプラント学研究	生体材料の親和性評価ならびに歯冠修復材料の耐久性試験について学習する。 定員は1～2名の予定		澤瀬 右藤
14	歯科補綴学研究	当教室が行っている補綴用材料の開発、口腔機能に関する研究について概説します。これらの中から指導教官とテーマを決め、実験を行います。 定員は2～3名程度の予定		村田 原田 鳥巢
15	先進口腔医療開発学研究	顎骨や粘膜、唾液腺疾患に関する再生医療のトランスレーショナル研究に参加し、医師主導治験を含めた臨床試験の展開方法を学ぶ。 定員は1～2名の予定		住田 井
16	口腔診断・情報科学研究	頭頸部腫瘍を対象に、MR機能画像を用いた臨床研究を行う。 定員は1～2名の予定		角 高木
17	歯科麻酔学研究	教員の指導のもと、実験動物を用いた基礎研究の方法、人での臨床研究の方法、実験で得られた呼吸・循環系の測定値の評価について学ぶ。 定員は2～3名の予定		讃岐 倉田
18	修復学研究(歯科補綴学)	教員の指導のもと、歯牙硬組織疾患の治療や歯冠修復材料に関する研究について学ぶ。 定員は1名の予定		平 山田 介田 江越
19	口腔顎顔面外科学研究	口腔癌に関する基礎的、臨床的研究 顎変形症等に関する臨床的研究 定員は3名程度の予定	山田	